

めぐり、つどう、「まわりミチ」



①「豊かで特徴的な敷地条件を活用した良好な地域環境」について

最小限のメンテナンス
道は滑りにくい素材で、容易にメンテナンスできる素材かつ耐久年数が高い素材を主に使用することで安全状態を維持します。

ヒートアイランド対策
環境に配慮したアップサイクル地盤地消を主とした瓦葺利用滑り止め薄層舗装を使用。メンテナンス性に優れ、ヒートアイランド対策として-5〜-10°温度低減可能。

視認性に配慮
歩行者と自動車の道など動線ごとに異なる色や素材の舗装材で明快にゾーニングします。

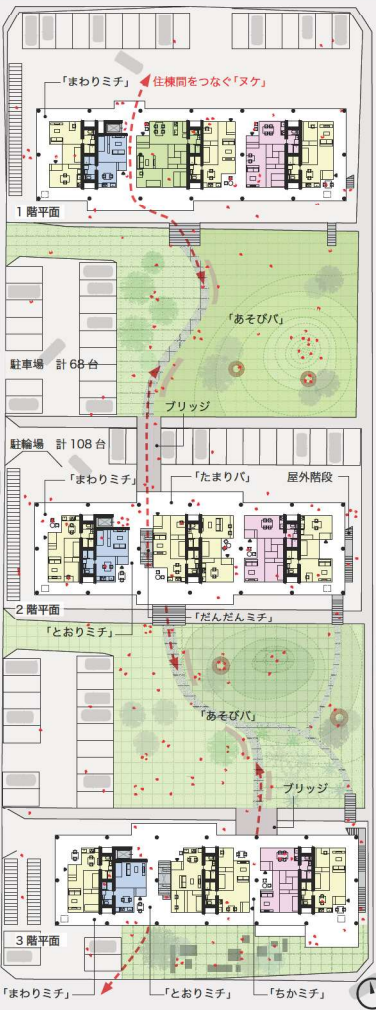
ユニバーサルデザイン
緩やかな傾斜と十分な幅を確保し、素材には天候の影響を受けにくい滑り止め加工や滑りにくい表面加工を施したものを使用し、安全性を高めます。

暮らしをつくる
「食べられる庭」など日常に取入れやすい庭を計画し、屋外での生活も楽しめる住を実現します。

地域らしさ
心のよりどころになるような四季を通して楽しめる植栽計画としてバラの街福山としてロゼンデーション系が放任栽培が可能なバラや市民に親しまれているモクセイ、センダングサスノなど後附しています。

概要

住戸タイプ別	住戸数
1DK (40.5㎡) x15	
2DK (49.5㎡) x55	
3DK (58.5㎡) x5	
4DK (72.0㎡) x15	
合計	90戸
延床面積	4533㎡
施工床面積	7800㎡
駐車台数	68台
駐輪台数	108台



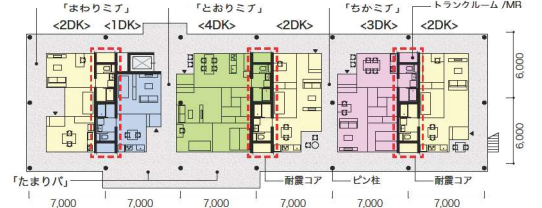
豊かな敷地高低差を生かした一体的な計画
敷地の高低差は各住棟に独立性を与えつつも、住棟の外周部は「まわりミチ(共用廊下)」という軒を出すことで、量塊の存在感を軽減しつつ、建物と敷地の境界を曖昧にします。境界をぼかすことで住棟とその間の「あそびバ(広場)」との一体性が生まれます。

ヌケでつながる3住棟
「ちかミチ」「とおりミチ」が各住棟を貫通してヌケをつくり、簡易なブリッジや階段がそれぞれの高低差をつなぐことで住棟の孤立を防ぎます。

地形や近隣に配慮したボリュームと外観
段差のある敷地条件を生かし、造成のない経済的な計画とします。5階建ての階高を極力抑え、地面に近く、触れ合いやすく、親しみやすい建物とします。

近隣の県営日吉台住宅の将来の建て替えに配慮した住棟配置
将来、建て替えの可能性がある近隣の県営日吉台住宅を考慮した住棟配置とします。まちの全体的なマスタープランを仮想することで、まち全体が一体となった広場などの計画が可能です。

「まわりミチ」で繋がり、ふれあい、育む、みんなの日吉台の家
バルコニーの隔板をなくし、共用廊下と繋げることで、4方を「まわりミチ」で囲まれた共同住宅を計画します。「まわりミチ」は大きな出合いの広場「あそびバ」に面し、住民同士が自然と触れ合うきっかけを生み出し、孤立をなくします。みんなの視線が死角をなくし、部外者の侵入を防ぎ、安心して住むことができます。また、「まわりミチ」に各住戸が接するため、高齢者の方の事故時に気配を感じやすく、早期発見に繋がります。住戸出入口が複数可能で介護者の方々のアプローチにも対応しやすい計画です。



＜「まわりミチ」による「ハレとケ」のプラン＞

「ハレとケ」のある家／住戸同志の関係性
一般的な共同住宅は、共用廊下側に水回りなどのプライベートゾーン、反対のベランダ側にリビングなどのセミパブリックゾーンとなりますが、本来、共用廊下側にパブリックゾーンがある活動が望ましいと考えます。住戸の南北に「まわりミチ」が通ることで、設備メンテナンスの問題も解決しつつ、「ハレとケ」を持つ昔ながらの長屋のような住戸の集合体を提案します。「まわりミチ」には、鉢植えや置物など居住者の生活の一部が溢れ出し、「生きたミチ」となりとなり、居住者の交流を促進します。**ランドスケープと融合した出合いの広場「あそびバ」「たまりバ」**
3棟を繋げる大きな「出合いの広場」をつくり、みなさまが共有する「日吉台の空」を創ります。夏季日射に配慮して、植栽による木陰やランドスケープと融合した居心地の良い広場を創造します。時には「屋外フィットネス」「ファーマーズマーケット」や「ほしぞらシネマ」など近隣市民に開放された仕掛けをすることで地域に相乗効果をもたらします。

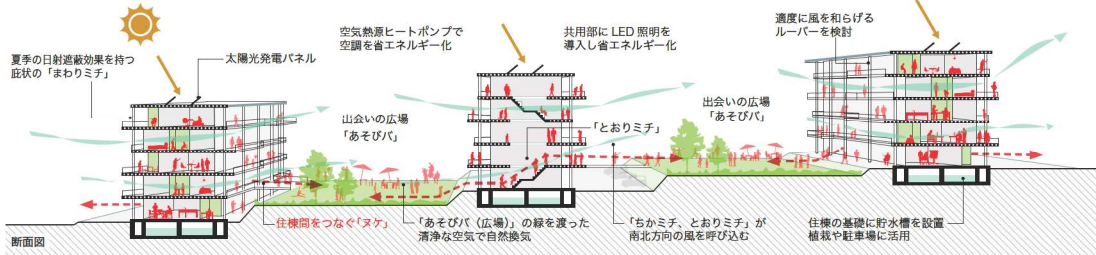
明確なゾーニングによる歩歩分離で生まれる大きな出合いの広場
歩行者と自動車のゾーンを明確に分離して、こどもたちや高齢者が安心、安全に遊び、寄り合うことのできる大きな「あそびバ(出合いの広場)」を計画します。また「あそびバ」は住棟内のヌケを通して、相互に繋がっています。



②「安心して住むことのできる利便性に配慮した住環境」について

温暖で雨が少ない気候を生かした自然採光、通風
「まわりミチ」には、直上階からの柔らかな日影ができ、温暖で雨が少ない気候におけるサンテラスにもなります。また、「ちかミチ」「とおりミチ」による建物のヌケは、立体的な風の道となり、中間期は設備に頼らなくても快適な計画となります。

高齢者の生活とセキュリティ対策
「バリアフリー化」、「低コスト」、「省エネルギー化」を図りながら、豊かな暮らし、地域社会をつくることを目指します。「まわりミチ」の相補的な「視認性」、適度な距離感によるご近所付き合いは防犯性を高めます。



一般流通品の採用によるユニバーサルデザインに配慮した計画
コストに配慮した一般流通品の選定を丁寧に行い、誰にでもわかりやすく使いやすい、安心、安全で公平な計画とします。

災害への対応
自然エネルギー(太陽光発電)と、雨水貯水槽(地下ビッド部分)、井戸水などで災害時の電力と水を確保します。

③「実現性の高いコスト縮減策と堅実なコスト管理方法」について

将来の更新性に対応した計画
設備シャフトは維持管理が行いやすい場所に設け、点検口を設けるなど、更新性に配慮し、長期的な利用にも耐えられる長寿命の建築とします。また各住戸内で設備配管を完結させ、メンテナンスやプライバシーにも配慮した公平な計画とします。

耐震コア／ボイドスラブ構造による自由な平面
構造は、RC造とし、耐震コアとピン柱により無理なく十分な耐震安全性を確保します。住戸内の間取りは完全に自由に計画可能です。高強度コンクリートを使用し、屋外部分の被り厚を小さくして耐久性に配慮します。ボイドスラブで、開放的な柱スパン長で梁型の出ない仕様とし型枠転用とコンクリート量を削減しコスト低減します。住戸壁壁は適宜、梁型として利用する合理的な計画とします。直接基礎を採用し、地盤調査により、支持層まで仕状改良とします。尚、プレキャストコンクリートの採用を検討します。

ZEH 基準の達成
強化外皮基準に合致した外皮性能、基準一次エネルギー消費量の20%以上の削減、再生可能エネルギーの導入を通して、ZEH 基準の達成に努めます。

地域産材の積極的な利用
耐火建築物とすることで内装制限を外し、内装に、安定的な供給が見込まれる地産材を積極的に採用し、温もろを感じる空間をつくとともに工期・コスト管理を行います。

歩留のよい合理的な計画
歩留を考慮した基準寸法を採用することで、材料のロスを最小としつつ、またRC型枠は上下階と、2工区別の別棟でも転用可能な計画とします。また、階高を低く抑え、コンクリート量を減らし、コスト削減に寄与します。

メリハリのある開口部によるインシヤル・ランニングコスト対策／省エネ計画
開口部の大きさは、適材適所でメリハリを持たせ、ガラス面積を小さくすることで、コスト削減かつ断熱性の高い計画とし、ランニングコストを抑え、誰にとっても優しい計画とします。鋼製建具は既製品を採用し、サイズを統一することで施工性にも配慮します。

